

安全研究審議会
第 2 回会合議事録（案）

・日時：平成 19 年 3 月 6 日(火) 13:30～16:30

・場所：航空会館 502 会議室

・出席者

委員：佐藤委員長（原安協）、松本委員長代理（埼玉大学）、久木田（名古屋大学）、草間（看護科学大学）、小林（大阪大学）、新田（原電）、班目（東大）、森山（京都大学）、山下（原子力安全基盤機構）
（順不同、敬称略）

オブザーバー：原子力安全委員会事務局、原子力安全保安院、文部科学省、原子力安全基盤機構

原子力機構：石島センター長、平野副センター長、安濃田、その他

・議事

1. 前回議事録の確認
2. 安全研究審議会における評価・検討の視点及び進め方について
（第 1 回安全研究審議会におけるご意見を踏まえて）
3. 基礎・開発研究成果の規制への活用等について
4. 17 年度成果及び 18 年度以後の計画の概要について
5. 安全研究審議会の報告書について

・配付資料

資料 No. 安研審 2-1	第 1 回安全研究審議会議事録（案）
資料 No. 安研審 2-2-1	安全研究審議会における評価・検討の視点及び進め方について
資料 No. 安研審 2-2-2	第 1 回安全研究審議会における主な意見
資料 No. 安研審 2-3	重点安全研究の評価の実施要領（修正案）
資料 No. 安研審 2-4	評価所見記入書式（修正案）
資料 No. 安研審 2-5-1	核燃料サイクル施設の安全性評価に関する研究 - 基盤・開発研究の成果の活用 -
資料 No. 安研審 2-5-2	高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究（2） - 開発研究の成果の活用 -
資料 No. 安研審 2-5-4	高速増殖炉の安全評価技術に関する研究 - 開発研究の成果の活用 -
資料 No. 安研審 2-5-5	放射線リスク・影響評価技術に関する研究
資料 No. 安研審 2-6	17 年度成果及び 18 年度以後の計画の概要について

資料 No. 安研審 2-7	重点安全研究計画調査票（平成 17～21 年度）
資料 No. 安研審 2-8	重点安全研究成果調査票（平成 17 年度）
資料 No. 安研審 2-9	安全研究審議会報告書（案）

< 参考資料 >

資料 No. 安研審 参 2-1	第 1 回安全研究審議会速記録
資料 No. 安研審 参 2-2	安全研究審議会委員名簿

議事

(1) 前回議事録の確認

事務局から安研審 2-1 に基づき、前回議事録の確認を行った。

(2) 安全研究審議会における評価・検討の視点及び進め方について

平野副センター長から資料 No.安研審 2-2～2-4 に基づき、第 1 回安全研究審議会におけるご意見を踏まえた安全研究審議会における評価・検討の視点及び進め方について説明の後、以下のような質疑応答を行った。

- ・安全研究委員会での評価は自己評価と考えて良いか？

安全研究委員会は安全研究センター長の諮問機関であり、大学の先生方といった外部委員と機構内の委員とから構成されており、内部評価と考えている。安全研究委員会で重点安全研究実施者の自己評価にコメントいただき、その結果を第三者評価である本審議会に提示して評価していただきたいと考えている。

- ・外部資金に基づく研究については、委託元での評価が実施されるのではないか？

これらの受託研究の成果は、国の安全規制に用いられるため、委託元から中立性・透明性を確保するよう要請がある。本審議会では、安全研究の実施体制や成果の活用について中立性の観点で評価を行っていただき、委託元の要請に応えたい。

(3) 基礎・開発研究成果の規制への活用等について

機構説明者から、資料 No.安研審 2-5-1～2-5-4 に基づき、核燃料サイクル施設の安全性評価に関する研究、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究（2）、高速増殖炉の安全評価技術に関する研究、及び放射線リスク・影響評価技術に関する研究の評価用資料について説明が行われた後、以下のような質疑応答が行われた。

- ・核燃料サイクル施設の安全性評価に関する研究の成果について、学協会規格への反映の具体的構想はあるのか？

機械学会で取り上げてもらえるように、勉強会を行っている。

- ・核燃料サイクル施設の安全性評価に関する研究の予算はどのように確保されているのか？

核燃料サイクル施設の高経年化対策については JNES からの受託、基盤的なところは運営費交付金、事業者のニーズに基づくものは直接受託と、研究の内容に応じて実施している。

- ・過去に行われた旧科技庁や保安院の研究成果を整理して、利用できるものに取りまとめて欲しい。

公開を前提に取りまとめを行っているところである。

- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究は、外部とどのように協力して実施しているのか？

大学との共同研究の他、同じところにある地震予知振興会の地震科学研究所の人たちに地下研を利用してもらって一緒に研究している。さらに、3つの委員会を設け、火山、地震、防災、活断層といった専門家の評価を受けている。

- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分は、ロングスケールに及ぶため、どこまでなら分かっているとか、超長期では何が分からないといった、時間軸を考慮した説明にしてほしい。

本日は少し説明不足であったが、ある時間区切りで成果を出し、短期的・長期的といった時間軸も考慮して全体計画を取りまとめていきたい。

- ・安全性の議論では、客観的事実に基づくとはいっても、それに反論する人もいるため、主張でしかないことに留意し、科学者としての謙虚なスタンスを忘れないで欲しい。
- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分がロングスケールであることを考慮すると、人材継承の問題が重要となるが、それについてはどのように議論されているのか？

人材育成・継承の問題が重要との認識は共通しており、調整会議において仕組みづくりの議論が開始されたところである。

- ・高速増殖炉の安全評価技術に関する研究で、P S Aの成果を次世代 F B R の設計にどのように反映していく計画か？

まずは F B R の運転実績を積むことが重要と考えており、リスク上重要なものに対策をとる形で、設計に反映していきたい。

- ・高速炉や廃棄物の地層処分といった分野は、国際的な枠組みを十分考えて実施して欲しい。
- ・放射線リスク・影響評価技術に関する研究は、大型施設依存型ではないので、旧原研と旧 J N C との統合のメリットが出しやすい部門として期待している。

(4) 17年度成果及び18年度以後の計画の概要について

事務局から資料 No.安研審 2-6～2-8 に基づき、機構で実施している重点安全研究の17年度成果及び18年度以後の計画の概要について説明があり、以下のような質疑応答が行われた。

- ・資料に受託と記されていないのは、運営費交付金による研究と理解して良いか？
基本的には、その通りである。

(5) 安全研究審議会の報告書について

事務局から資料 No.安研審 2-9 に基づき、安全研究審議会の報告書（案）について説明があった。